

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】令和2年2月20日(2020.2.20)

【公開番号】特開2019-40763(P2019-40763A)

【公開日】平成31年3月14日(2019.3.14)

【年通号数】公開・登録公報2019-010

【出願番号】特願2017-162494(P2017-162494)

【国際特許分類】

H 01 R 43/02 (2006.01)

H 01 R 4/02 (2006.01)

【F I】

H 01 R 43/02 B

H 01 R 4/02 C

【手続補正書】

【提出日】令和2年1月8日(2020.1.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

【図1】端子付電線を示す斜視図である。

【図2】接続前の電線及び端子を示す斜視図である。

【図3】端子付電線の背面図である。

【図4】超音波接合装置を示す概略斜視図である。

【図5】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図6】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図7】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図8】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図9】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図10】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図11】端子を電線に圧着した状態を示す説明図である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

この状態では、好ましくは、芯線接続部23の底部23aが相手側接続部21側に向けて下向き傾斜するように、振動抑制用接触部50が被覆圧着部24に接している。換言すれば、底部23aが水平姿勢でアンビル32の載置面32aに載置状に支持された状態において、振動抑制用接触部50の載置面51が、芯線接続部23の最下部の位置よりも上方に位置する関係となっている。これにより、補助支持部38が端子20を両側から押えて水平姿勢にすると共に、ホーン42によって露出芯線14aと底部23aとを下方に向けて押すと、被覆圧着部24が強い力で振動抑制用接触部50に押付けられるようになる。